

地域の安全を願って

# 積水化学工業滋賀水口工場が 防犯灯を寄付

このほど、積水化学工業滋賀水口工場の福永年隆工場長から、防犯灯を寄付いただきました。この防犯灯は、同工場の工場開設50周年を記念し、地域防犯対策事業としていたいたもので、泉・下山幹線道路などに設置される予定です。同工場では、毎年地域との交流事業や、子どもたちの化学の学習の場を設けるなど、地域活動を積極的に展開されていきます。地域の安全を願って設置した防犯灯、地域を明るく照らし、犯罪の軽減などに一層の効果が期待されます。



▲中嶋市長に目録書を手渡す福永工場長

このほど、積水化学工業滋賀水口工場の福永年隆工場長から、防犯灯を寄付いただきました。この防犯灯は、同工場の工場開設50周年を記念し、地域防犯対策事業としていたいたもので、泉・下山幹線道路などに設置される予定です。同工場では、毎年地域との交流事業や、子どもたちの化学の学習の場を設けるなど、地域活動を積極的に展開されていきます。地域の安全を願って設置した防犯灯、地域を明るく照らし、犯罪の軽減などに一層の効果が期待されます。

## くすり学習館が オープン

市の地場産業の一つである菓業の振興を図り、市民の健康増進と体験学習、交流の場として、「鹿深夢の森」近くに整備された「くすり学習館」が、8月10日に開館しました。

同館の管理運営は、市が指定管理者と定めた滋賀県菓業協会が行います。

館内では、菓の歴史に関する興味深い資料が常設展示されるほか、健康データのチェックや体験学習コーナーも設けられます。また、小中学校の児童生徒の体験学習にも活用されることとなっています。入館料は無料ですので、お気軽にお立ち寄りください。



### くすり学習館

甲賀市甲賀町大原中898-1

☎ 88-8110

☎ 88-3154

#### ■開館時間

午前9時30分～午後5時

#### ■休館日

毎週月曜日(祝日の場合は、翌日に振り替えとなります。年末年始の休館は12月29日～1月3日)



▲水口庁舎に展示されたピースアートと生徒の皆さん

## 水口 中学校

# 平和を考えるきっかけに ピースアートを創作

水口中学校3年生が平和を願い創作した「ピースアート」が7月から8月にかけて市役所水口庁舎と水口図書館で展示されました。

作品は1.2メートル×2.4メートル。青い鳥が手のひらから飛び立つように描かれ、「心から『争い』という言葉がなくそうよ」「世界のみんなど優しく手をつなごう」など、生徒たちが考え、選んだ1行ずつの詩18首が刻まれています。

生徒たちは2年生のころから総合的な学習の時間を利用して、沖縄戦や米軍基地問題などについて理解を深めており、「自分たちにできることは何か」を考えた結果、平和へのメッセージを込めた作品を制作しました。

今年4月には、修学旅行で訪問すると同時に沖縄の読谷村役場にも展示され、生徒たちの平和への思いが多くの人に伝えられました。

### 平和について考えたこと

今もまだ核兵器などがたくさんあることを知り、なぜ、また持っているのだらうと思いました。戦争なんてあってほしくありません。

戦争や核兵器は人の悲しみしか生み出さず、この世からなくなさなければいけないと思いました。

今回の平和式典は、初めて参加した国が17か国あり、世界中から74か国が参加しました。アメリカなどの国の参加も注目されました。

私は「平和」ということが、どれほど大切かを考えました。日本が平和にしようと思えば、他の国が知らんぷりをしてしまったら意味がありません。

やはり、世界のみんなが協力し、世界がひとつになることが大切だということを改めて思いました。

### 原爆ドームの前で

原爆ドームが目に入った瞬間、原爆のあとがここにあると思いました。

実際に見た原爆ドームで、原爆の恐ろしさを感じました。

とてもかたい鉄が、雑巾をしぼった時のように、ぐにゃりとねじれ、重たい感じが吹きとばされて、中が丸見えになっていました。このようなことが一瞬のうちに起こったのかと

### 折鶴に思いをこめて

原爆の子の像へ折鶴を捧げました。たくさん折鶴が捧げられてびっくりしました。私は、ぎりぎりまでがんばって折鶴を折り続けてよかったと思えました。

### 広島のみちを見ながら

きれいに整備された広島島の道路やモノレールの駅、高いビルなど、こんなにすてきな町に原爆が投下されたなんて信じられません。建物や道路は元通りになっても、人の体や心は元通りにはならない

思うと信じられません。

深い悲しみやいかり、くやしさがあふれかえった8月6日を決して忘れないように、自分の目と心に焼き付けました。

### 平和記念式典で

平和記念式典の中で一番印象に残ったことは、児童代表の6年生の平和への誓いでした。

誓いの最後に児童2人が声を合わせて、「広島を願いを、世界へ、未来へ伝えていくことを誓います。」と言ったとき、私は背中がぞくぞくしました。平和が本当に大切だということを感じました。私も戦争のことを、広島原爆のことを友人たちに伝えていこうと思えました。戦争を知らない私たちにできる事だと思えました。

### 伝えること

私が今まで知っていた原爆についての知識は、ほんの一部に過ぎなくて、実際はもっと悲惨だったということがわかりました。私たちは戦争や広島のことを知っていくことが大切だと思います。

また、広島で学んだことを学校のみんなどやまわりの人に伝えなければいけないと思いました。幸せを奪ってしまう戦争は二度と起こしてはいけなく強く感じました。

### 語り部の方のお話を聞いて

らいことだったと思います。このような悲しい戦争は二度と起こしてはいけなくと思えました。

原爆が落ちた当時に子ども時代を過ごした語り部さんからお話を聞きました。今の子どものように学校へ行って勉強したり、友だちと遊んだりするような生活ではありませんでした。

原爆が落ちた直後だけでなく、その後の生活までも苦しめるおそろしいものだという事を知りました。